



◆ 第22回 世界男子ジュニア選手権 ◆

# 戦い方を貫き示した1つの道筋

スペインを舞台に7月16日から28日にかけて開かれた第22回世界男子ジュニア選手権。2大会ぶりの出場となる日本は18位に沈んだが、ぶれずに戦い抜いて、1つの形を示した。 (写真はチーム提供)

やはり世界で勝つのは簡単ではなかった。2年前の世界男子ユース選手権（ジョージア）で8位の実績を持つ世代で挑んだ今大会は、目標にしていた1次リーグ突破がかなわず、18位で大会を終えた。初戦でセルビアに19-21で競り負け、ヨーロッパ王者スロベニアにも7点差をつけられた。

決勝トーナメント進出のために負けられなかったチュニジア戦では、序盤から退場者を出してリードを奪われ、追いつくためにエネルギーを使いすぎてうまく選手交代で体力を温存することができず、最後に集中力が切れて終了間際に失点を喫して1点差で敗れた。4戦目で開催国のスペインに黒星を喫し、1次リーグ5位以下が確定。つまり決勝トーナメント進出を逃した瞬間だった。

結果だけ見れば世界との差を見せつけられるかっこうとなったが、では試合内容はどうかだったのか。

吉村監督は昨年のアジアジュニア選手権から一貫して攻撃のテンポを落とさずゲーム運びをめざしてきた。DFの基盤を固め、無理に速攻に走らない。セットOFになったら7人攻撃などで時間を使いながら相手DFの綻びをつき、カットインなど確率の高いシュートを狙う。アジアで見せた戦い方は世界の舞台でも変わらなかった。

例えばセルビア戦の失点は21。セルビアも初戦ならではの固さがあっただろうが、日本戦の得点が一番少なかった。日本からするとよく守れていたと言えるゲームだった。

実際、残り2分を切るまで19-19とどちらに転んでもおかしくはない展開だった。吉村監督も「相手が思っていた以上のDF強度を日本が出していて、ビックリしていたと思う」と話す。

格上のヨーロッパ勢を相手に臆せず戦えた理由は、事前合宿にある。大会約1カ月前にヨーロッパに飛んだ日本ジュニア代表は、ポルトガル、フランスで強化合宿を行ってきた。そこでポルトガル、アイスランド、フランス、エジプトなどとトレーニングマッチを繰り返した。ポルトガル、フランス、エジプトの3カ国は今大会で準決勝に進んだ強豪国で、そのチームと戦えたことが大きかった。事前合宿の大切さを選手たちは改めて実感したそうだ。

こうした事前の準備があったからこそ、セルビアとも十分に戦えた。



## 攻撃傾向から見る日本の狙い

ユース年代に比べ、ジュニア年代になるとヨーロッパ、アフリカ勢は身体がひと回り大きくなり、フル代表と遜色ない身体つきの選手も多く、よりパワフルなプレーをしてくる。

力強い相手に対抗するために、日本も強化合宿でトレーニング強度を上げてきたが、それでも差は大きかった。とくにDF時、ボールを持つ相手を捕まえても、しっかりとボールを止められずプレ

ーが継続し、そこから相手にボールをつながれてポストやカットインで失点するシーンは少なくなかった。

ただ、それでも7試合いづれも失点数が30点を超えなかったのは攻撃回数を減らしたからだ。

単純に考えて、50%の決定率のチームに60回攻撃されたら30失点。日本が40%の決定率だったら24得点で6点差がつく。しかし、攻撃回数を10回減らすだけで25失点となり、得点数は20と、点差が1つ縮まった計算になる。こうした考えが、今回の日本のベースになっていた。

少ない攻撃回数の中でも明確な内容、狙いを持っていたことがうかがえる。それを示すのが、【表1】と【表2】だ。

【表1】は1次リーグを終えた時点での各国のゴール数とシュート本数をまとめたものだ。日本は24チーム中22位の得点数で、シュート本数は24位、つまり一番シュートを打っていなかったということになる。対戦相手の違いもあり単純に比較はできないが、シュート本数トップのエジプトとは1試合で20本以上も差がある。いかに日本が時間をかけて攻撃していたのかがわかる数字だ。

得点数は全体の22位だが、失点数の少なさは8位の122失点（HFのスタッツより）、1試合平均は約24失点と、数字だけだとよく守れた印象を受ける。平均得点と平均失点の差は約2点。この2点を埋めることができれば、世界のトップとも対等に戦える可能性があるということ

とだ。

また、得点傾向を見てみると、サイドシュートを積極的に狙っていることがわかる。【表2】のとおり、サイドシュートの本数は全体2位となる49本。決定率がやや悪く17位だったが、得点数は28本で4位タイの好成績だ。

そして確率の低いディスタンスシュート（9mからのロングシュートなど）は72本で22位。つまりディスタンスシュートは少なかつたということになり、確率の低いところで打たないことを徹底しようとしていたことがわかる。

こうした狙いを実現するために使った戦術が、アジアジュニアでも武器になった7人攻撃だ。ゆっくりとしたボール回しからサイドに展開するのが日本の攻撃パターンとして定着していたから、全員で意思統一してサイドを狙うことができていたのだ。サイドに入った矢野、櫻井らの得点数がもう少し伸びれば、結果も大きく変わってくるだろう。

攻撃回数を減らす分、いかに効率よく得点を奪えるかがポイントになる。どうしても確率が低くなりがちなディスタンスシュートの割合を減らし、より確実に決められるポジションから攻めるというところにいきついた。これが日本が明確に持っていた攻撃の狙いだった。

残り10分の攻防を  
いかに制することができるか

こうした準備、戦い方のもと、日本は

世界と戦った。結果こそ18位だが、その戦いぶりには他国からも注目を集めたという。吉村監督は「50分まで競るところまではきた。そこから逃げ切れたアジアと逃げ切れなかった世界との違いがあった」と話す。

その言葉どおり、60分間のうち50分は十分に戦えていた。セルビア戦も前述のとおり残り2分を切るまで同点、スロベニア戦は残り8分で20-24と射程圏内をキープし、スペイン戦も後半22分の時点で20-21と1点差だった。

だからこそ余計に、最後の場面での彼の集中力の差は顕著だった。とくに日本は100%に近いパフォーマンスを50分まで出していたため、ガス欠を起こし、残り10分を走り切れる体力、集中力が残されていなかった。競った展開の中で主力を5分でも休ませようとベンチに下げる交代があってもだ。

50分までは戦える1つの戦い方を示したが、それを最後まで継続するための明確な答えはまだ手にしていない。

精神的にも肉体的にもきつくなる残り10分間も、それまでの50分と同じレベルで戦うために、ベンチ入りできる16人全員のレベルを上げることや、より高い強度を保つためのトレーニングが必要になるのではないか。

残り10分も強度を落とさず、いかにして戦えるようにするかが今後、日本が世界と互角の勝負ができるためのキーワードになりそうだ。

表2

順	国	点数	本数
1	デンマーク	32	38
1	スペイン	32	56
3	ブラジル	31	43
4	フランス	28	38
4	バーレーン	28	43
4	日本	28	49

表1

順	国	点数	本数
1	フランス	199	295
2	エジプト	198	304
3	韓国	176	284
4	スウェーデン	168	248
5	デンマーク	163	248
:			
22	日本	109	195



# 世界男子ジュニア選手権スコア

## 1次リーグ

### ▽A組

スロベニア	32	-	25	チュニジア
セルビア	21	(9-9)	19	日本
スペイン	34	-	13	アメリカ
スロベニア	29	(16-12)	22	日本
セルビア	36	-	19	アメリカ
スペイン	26	-	20	チュニジア
チュニジア	26	(14-8)	25	日本
スロベニア	43	-	16	アメリカ
スペイン	29	-	26	セルビア
チュニジア	30	-	23	アメリカ
スロベニア	30	-	28	セルビア
スペイン	28	(13-11)	22	日本
日本	21	(5-11)	20	アメリカ
チュニジア	29	-	23	セルビア
スロベニア	22	-	21	スペイン

【順位】①スロベニア②スペイン③チュニジア④セルビア⑤日本⑥アメリカ

### ▽B組

エジプト	44	-	17	オーストラリア
フランス	48	-	19	ナイジェリア
スウェーデン	34	-	28	韓国
エジプト	47	-	30	ナイジェリア
スウェーデン	44	-	16	オーストラリア
フランス	46	-	32	韓国
韓国	42	-	30	ナイジェリア
エジプト	32	-	22	スウェーデン
フランス	50	-	11	オーストラリア
ナイジェリア	35	-	21	オーストラリア
エジプト	38	-	36	韓国
スウェーデン	27	-	23	フランス
韓国	38	-	20	オーストラリア
スウェーデン	41	-	25	ナイジェリア
エジプト	37	-	32	フランス

【順位】①エジプト②スウェーデン③フランス④韓国⑤ナイジェリア⑥オーストラリア

### ▽C組

クロアチア	23	-	17	コソボ
ブラジル	35	-	30	ポルトガル
ハンガリー	34	-	30	バーレーン

ポルトガル	29	-	27	バーレーン
クロアチア	33	-	29	ブラジル
ハンガリー	36	-	21	コソボ
ポルトガル	32	-	21	コソボ
クロアチア	37	-	32	ハンガリー
ブラジル	27	-	26	バーレーン
クロアチア	32	-	23	バーレーン
ブラジル	36	-	23	コソボ
ポルトガル	36	-	28	ハンガリー
バーレーン	29	-	29	コソボ
クロアチア	32	-	30	ポルトガル
ブラジル	31	-	25	ハンガリー

【順位】①クロアチア②ブラジル③ポルトガル④ハンガリー⑤バーレーン⑥コソボ

### ▽D組

アイスランド	26	-	19	チリ
デンマーク	32	-	31	ノルウェー
ドイツ	43	-	25	アルゼンチン
アイスランド	26	-	22	アルゼンチン
デンマーク	30	-	25	ドイツ
ノルウェー	36	-	25	チリ
ノルウェー	29	-	19	アイスランド
デンマーク	31	-	23	アルゼンチン
ドイツ	39	-	22	チリ
チリ	25	-	22	アルゼンチン
アイスランド	25	-	22	デンマーク
ドイツ	29	-	20	ノルウェー
ノルウェー	31	-	21	アルゼンチン
デンマーク	48	-	24	チリ
ドイツ	26	-	17	アイスランド

【順位】①デンマーク②ドイツ③ノルウェー④アイスランド⑤チリ⑥アルゼンチン

## プレジデントカップ

▽21-24位決定戦	アメリカ	31	-	18	オーストラリア
	アルゼンチン	36	-	29	コソボ
▽23位決定戦	コソボ	38	-	20	オーストラリア
▽21位決定戦	アルゼンチン	23	-	20	アメリカ
▽17-20位決定戦	日本	26	(14-6)	16	ナイジェリア
	バーレーン	30	(12-10)	29	チリ

### ▽19位決定戦

ナイジェリア	34	-	26	チリ	
▽17位決定戦	バーレーン	23	(12-12)	22	日本
			(11-10)		

## 決勝トーナメント

### ▽1回戦

エジプト	30	-	29	セルビア
スロベニア	32	-	28	韓国
クロアチア	29	-	16	アイスランド
チュニジア	29	-	26	スウェーデン
デンマーク	30	-	29	ハンガリー
ノルウェー	29	-	28	ブラジル
ポルトガル	37	-	36	ドイツ
フランス	24	-	23	スペイン

### ▽15位決定戦

ハンガリー	40	-	36	韓国
-------	----	---	----	----

### ▽13位決定戦

セルビア	24	-	22	アイスランド
------	----	---	----	--------

### ▽11位決定戦

スウェーデン	36	-	30	ブラジル
--------	----	---	----	------

### ▽9位決定戦

ドイツ	29	-	28	スペイン
-----	----	---	----	------

### ▽2回戦

エジプト	29	-	27	ノルウェー
フランス	35	-	32	デンマーク
ポルトガル	26	-	25	スロベニア
クロアチア	27	-	24	チュニジア

### ▽5-7位決定戦

デンマーク	40	-	34	ノルウェー
-------	----	---	----	-------

### ▽7位決定戦

スロベニア	31	-	27	チュニジア
-------	----	---	----	-------

### ▽5位決定戦

チュニジア	37	-	36	ノルウェー
-------	----	---	----	-------

### ▽準決勝

デンマーク	34	-	26	スロベニア
-------	----	---	----	-------

フランス	35	(19-16)	33	エジプト
		(16-17)		

クロアチア	31	(12-9)	28	ポルトガル
		(19-19)		

### ▽3位決定戦

エジプト	37	(17-15)	27	ポルトガル
		(20-12)		

### ▽決勝

フランス	28	(15-10)	23	クロアチア
		(13-13)		

【最終順位】①フランス②クロアチア③エジプト

④ポルトガル⑤デンマーク⑥スロベニア⑦チュニジア⑧ノルウェー⑨ドイツ⑩スペイン⑪スウェーデン⑫ブラジル⑬セルビア⑭アイスランド⑮ハンガリー⑯韓国⑰バーレーン⑱日本⑲ナイジェリア⑳チリ㉑アルゼンチン㉒アメリカ㉓コソボ㉔オーストラリア

## 日本選手得点

背番号	名前	(身長・所属)	セルビア	スロベニア	チュニジア	スペイン	アメリカ	ナイジェリア	バーレーン	計
No. 1	平尾 克己	(190cm・筑波大3年)	-	-	K	K	K	K	K	0
No. 2	高野 颯太	(193cm・筑波大3年)	0	1	1	1	0	0	0	3
No. 3	末岡 拓美	(187cm・福岡大3年)	0	4	4	2	2	3	6	21
No. 6	服部 将成	(192cm・明大3年)	3	1	0	1	0	5	6	16
No. 7	徳田 廉之介	(180cm・筑波大3年)	5	5	7	7	4	1	4	33
No.11	藤田 龍雅	(173cm・中大2年)	1	0	0	0	5	2	1	9
No.13	矢野 世人	(186cm・筑波大2年)	4	3	5	3	4	4	1	24
No.15	櫻井 睦哉	(189cm・明大2年)	1	1	2	3	1	5	0	13
No.16	中村 光	(182cm・日体大3年)	K	K	K	K	K	K	K	0
No.17	朝野翔一朗	(185cm・筑波大2年)	0	0	0	0	-	-	-	0
No.21	中村 翼	(179cm・中大2年)	1	4	0	0	0	2	0	7
No.22	高橋 海	(190cm・明大2年)	K	K	K	K	K	K	K	0
No.25	川崎 駿	(183cm・日大4年)	1	1	5	5	5	2	3	22
No.27	大杉 拓巳	(187cm・HONDA)	0	0	1	0	0	0	0	1
No.29	磯田 健太	(191cm・関西福祉科学大3年)	0	0	0	0	0	0	0	0
No.30	西村 洋亮	(190cm・中部大3年)	-	-	-	-	-	-	-	0
No.31	青 雅俊	(190cm・中大1年)	0	2	0	0	0	0	0	2
No.32	露木 涼	(196cm・明星大1年)	3	0	-	-	0	2	1	6
		得点	19	22	25	22	21	26	22	157
		失点	21	29	26	28	20	16	23	163

【スタッフ】チームリーダー：佐藤壮一郎(日本協会)、監督：吉村晃(日本協会)、コーチ：船木浩斗(日本協会)、GKコーチ：比嘉薫(日本協会)、トレーナー：水野賢太(日本協会)、分析：市村志朗(日本協会)、ドクター：大西信三(日本協会)

## オールスターチーム

MVP	イヴァン・マルチノビッチ (クロアチア)
LW	ディラン・ナヒ(フランス)
LB	エミール・ラエルケ(デンマーク)
CB	キリアン・ヴィレミント(フランス)
RB	ディオゴ・シルバ(ポルトガル)
RW	フラン・ミレタ(クロアチア)
PV	ルイス・フラデー(ポルトガル)
GK	ヴァレンティン・キーファー (フランス)
得点王	ディオゴ・シルバ(ポルトガル) 76点